

甲斐市立敷島小学校 自己評価書（前期）

平成22年7月16日（金）作成

校長 「山中 長壽」 記述者 職名（教頭）「森本 清」

学校教育目標

「知・徳・体の調和のとれた 人間性豊かな子どもの育成」

- ① 生きてはたらく 確かな学力を身につけた子ども
- ② 心の豊かな子ども
- ③ 明るく たくましい子ども

学校経営方針

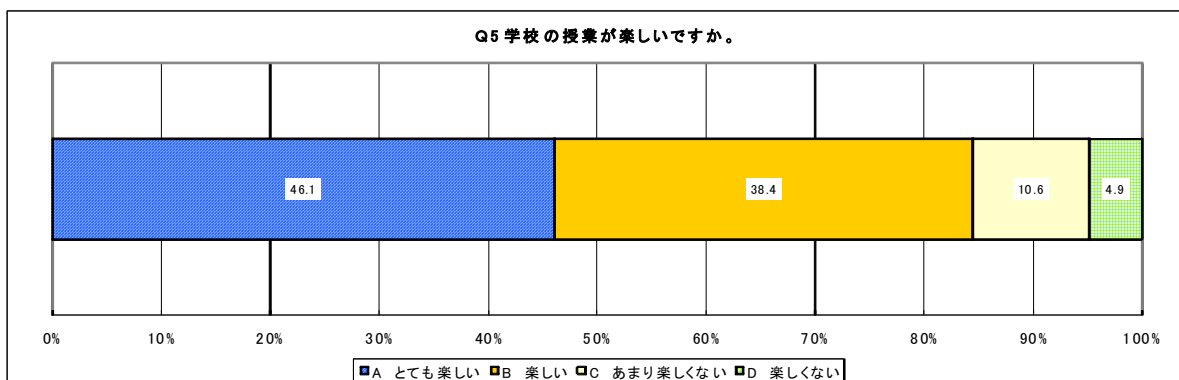
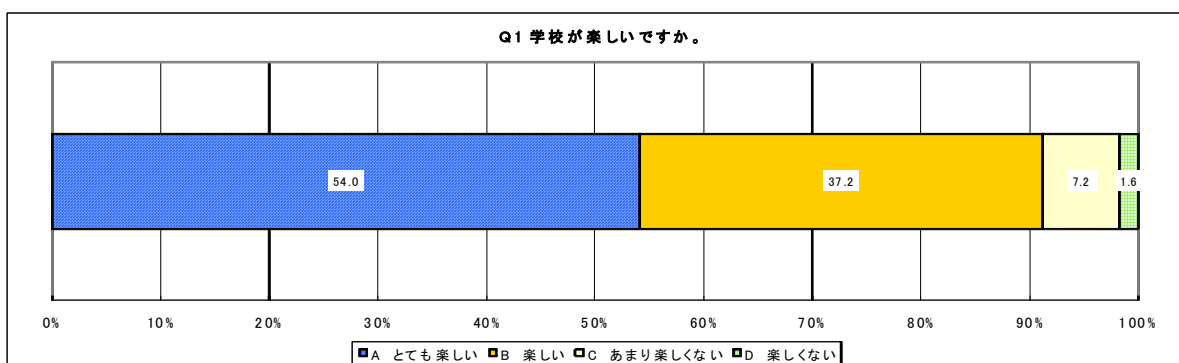
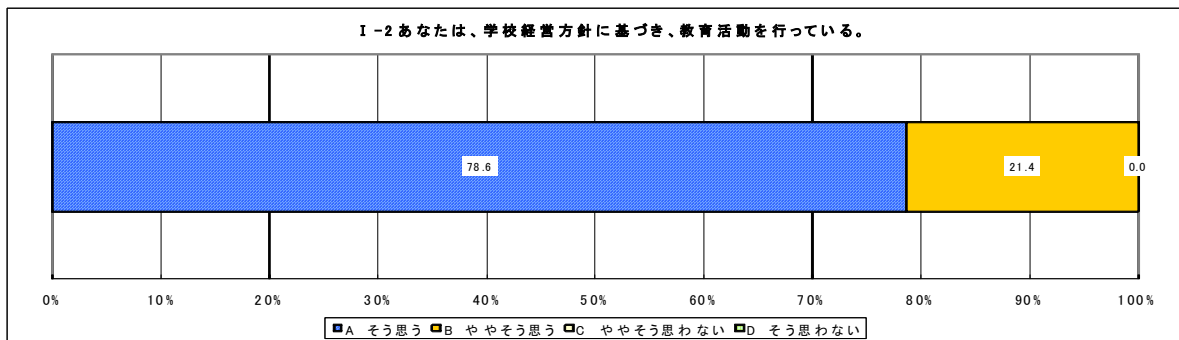
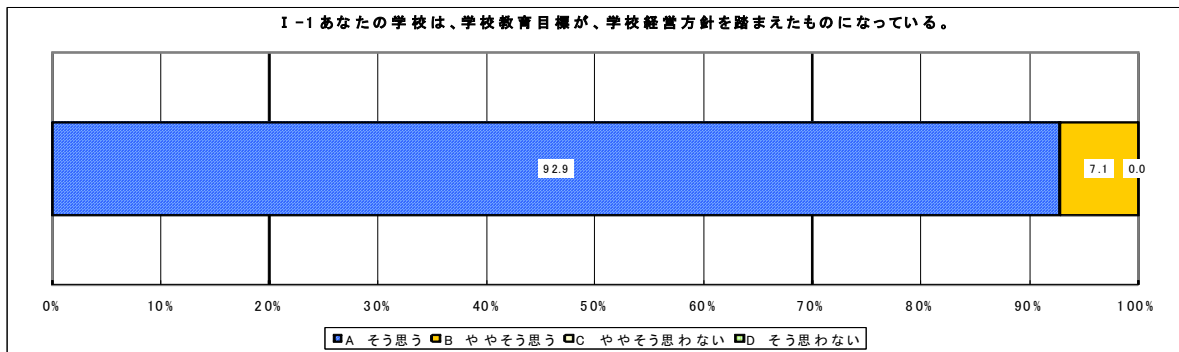
- (1) 全職員は、児童・保護者・地域の実態を的確に把握して、学校教育目標の実現に向けて努力する。
- (2) 「生きる力」をはぐくむ適切な教育課程の編成と実施に努めるとともに、新学習指導要領への円滑な移行を踏まえた指導計画の改善と充実に努める。
- (3) 体験活動や読書活動の充実に図り、豊かな心の育成をめざす。
- (4) 特色ある活動の質の向上をめざし、その充実に図る。
- (5) 教育活動を推進するにあたり、常にPDCAに基づいた振り返りと改善を行い、その充実に努める。
- (6) 学校生活及び教育活動における凡時徹底と緩急・硬軟の按配により、楽しく節度ある学校づくりをめざす。
- (7) 授業時数を十分確保し、指導内容・指導法の工夫などにより学習の基礎・基本の定着を図る。
- (8) 言語活動の充実と活用型学習活動を取り入れることで、思考力・表現力の向上をめざす。
- (9) 体験学習を重視し、地域の人・文化・自然等の教育財産の活用を図り、自ら学ぶ意欲や共に学び合う態度の育成及び実践力の向上に努める。
- (10) 学校・家庭・地域が理解・連携を図り、児童に基本的な生活習慣や社会的実践力をつける。
- (11) より深い児童理解に努め、指導方針や内容の共通理解を図る中で適切な生徒指導にあたる。
- (12) 特別支援教育についての啓発を図り、個々のニーズに応じた適切な指導が行える校内体制の充実に努める。
- (13) 家庭や地域社会との積極的な交流体制の充実に努め、地域に開かれ、地域に信頼される学校づくりをめざす。
- (14) 教育環境を整備し、明るく楽しい学校づくりと、健康・安全教育を推進する。
- (15) 教職員の資質の向上を図るとともに、職員の長所を生かし、協働して教育活動に専念できる環境づくりに努める。

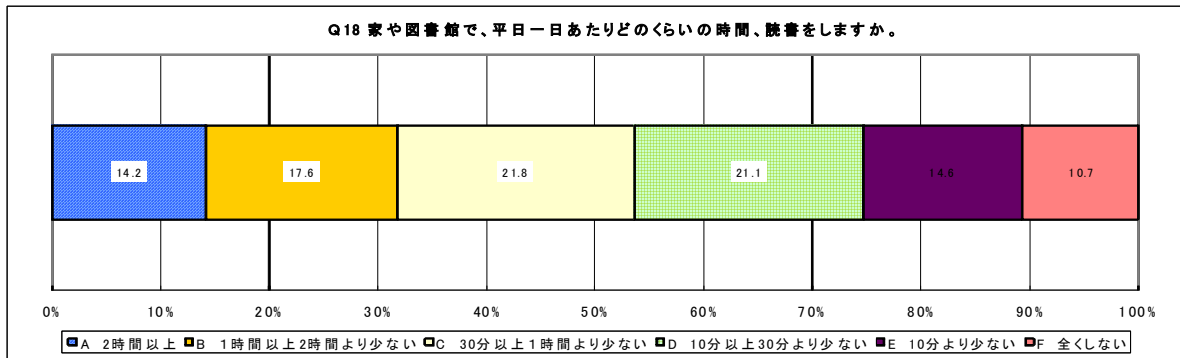
1 全体評価

- ・ 教職員の自己評価や児童アンケートの回答から見ると、本校の前期の教育活動及び学校運営（学校経営、学校運営、学習指導、生徒指導、地域との連携、学校の特色等）については、「そう思う」「ややそう思う」と回答している割合がほとんどである。これは、教職員が学校経営方針を理解し、日常の教育実践や校務分掌を分担遂行する中で学校教育目標の具現化に努めているからであると考えられる。
- ・ 全校児童の多くが、「学校が楽しいですか」という設問に「とても楽しい」、54.

0%、あるいは「楽しい」、37.2%と回答し、昨年度後期（42.6%、41.4%）より、さらに学校生活を肯定的にとらえている。

- ・授業については、多くの児童が「とても楽しい」「楽しい」と回答している。また、授業中に質問したり、分からないことを聞くなど積極的な姿勢が見られる。
- ・家庭学習に取り組む姿勢（学習時間がDEFと回答、32.9%）に課題があるように思われる。
- ・国語の授業内容がよく分かるなど、学習を理解している。



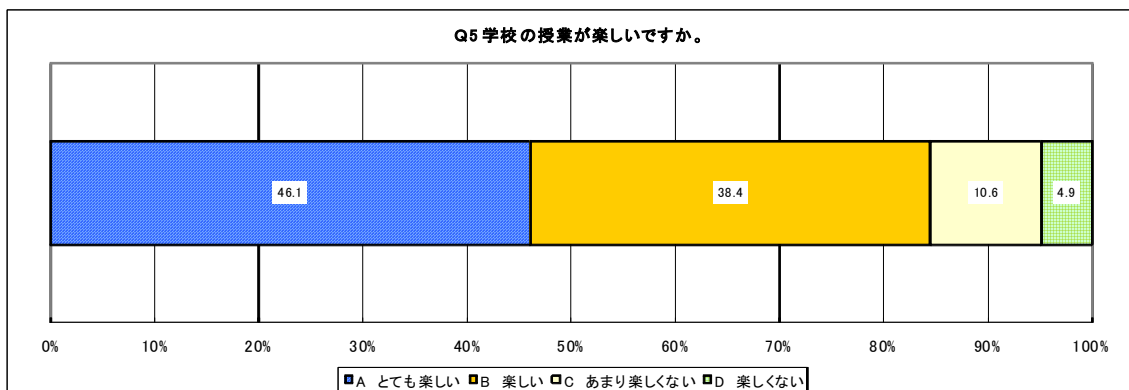
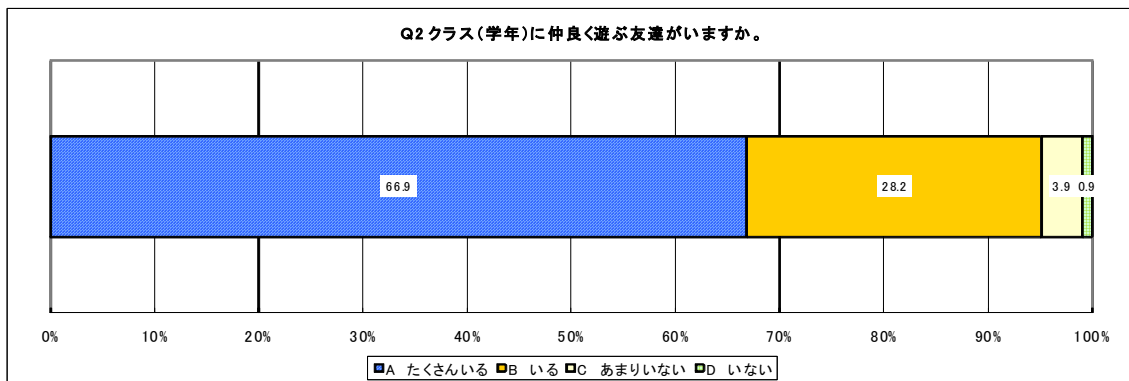


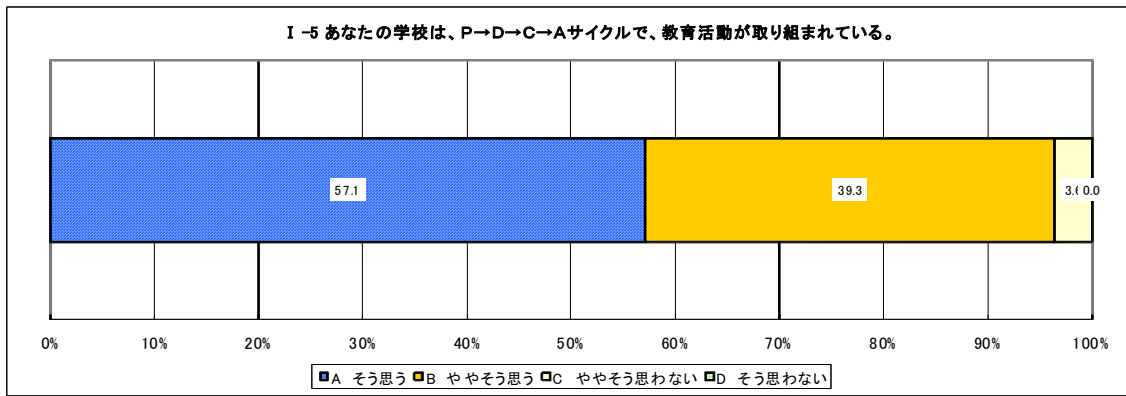
2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況

- 全教職員が、学校教育目標具現化に向け、学校経営方針を理解し教育活動を行っている。児童のアンケートを見ても、全校児童の91.2%が「学校が楽しい」「楽しい」、95.1%が「仲良く遊ぶ友達がたくさんいる」「いる」、84.5%が「授業がとても楽しい」「楽しい」と回答している。ただ、これらの設問に対し、それぞれ8.8%、4.8%、15.5%の児童が満足していない状況であることも事実である。
- P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動の実施については、「そう思う」「ややそう思う」で96.4%であった。常に教育活動を評価し、改善を心がけて取り組んでいることの表れではないかと考える。





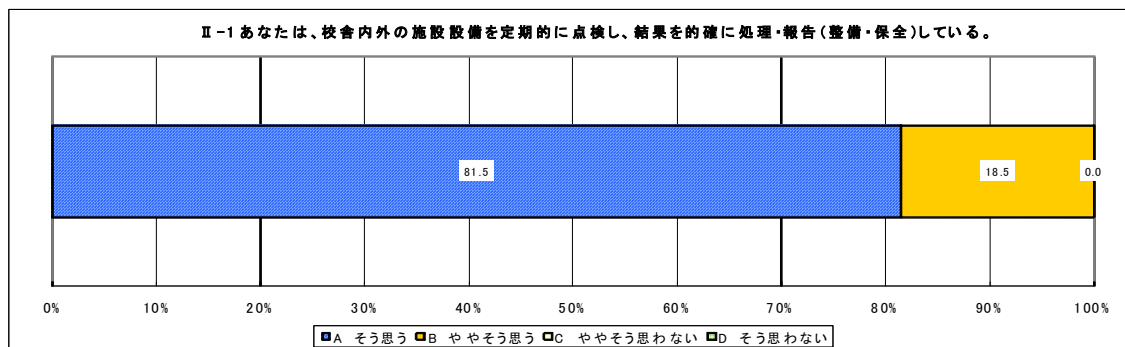
改善策

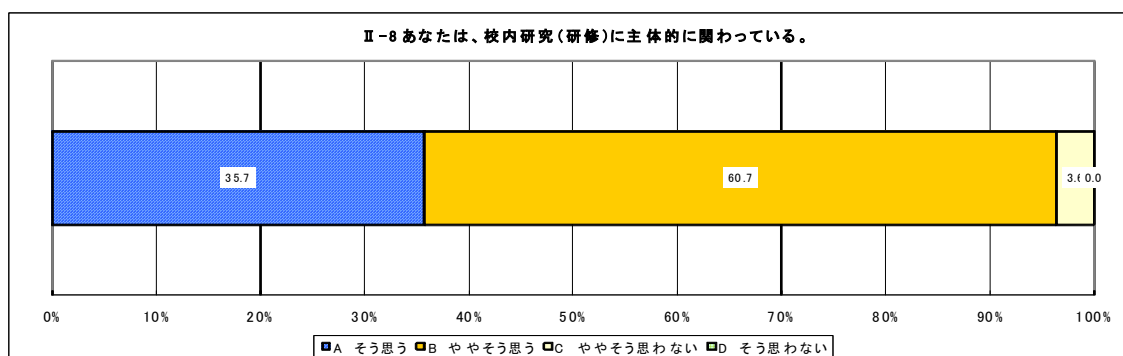
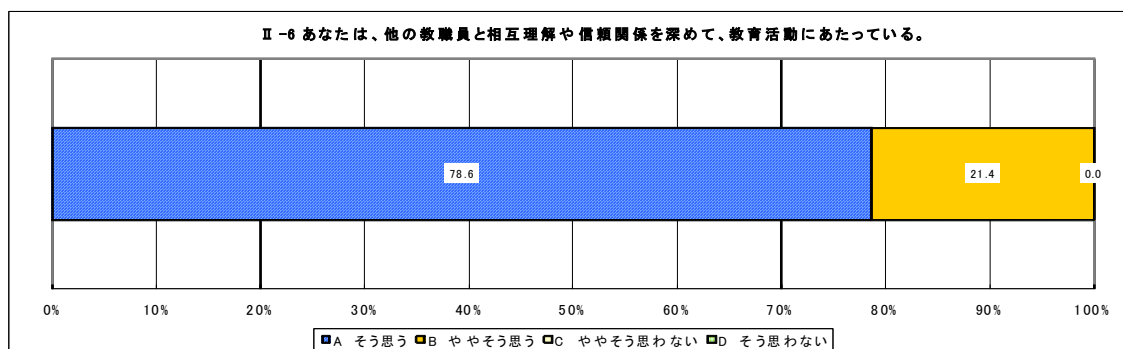
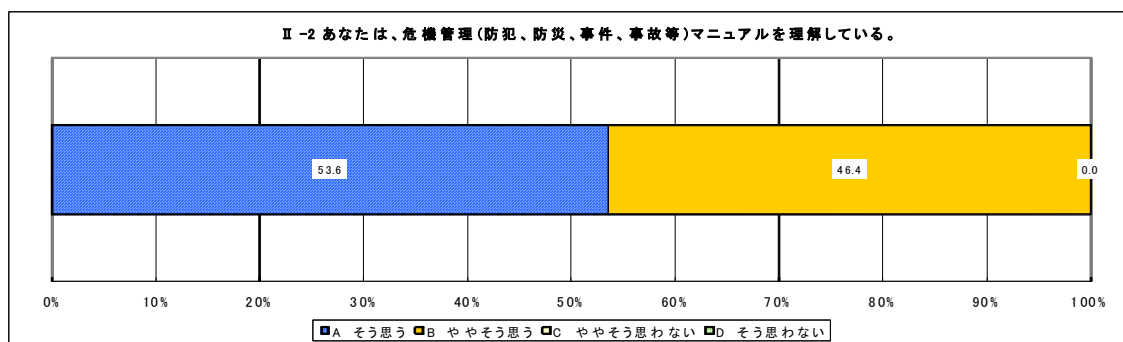
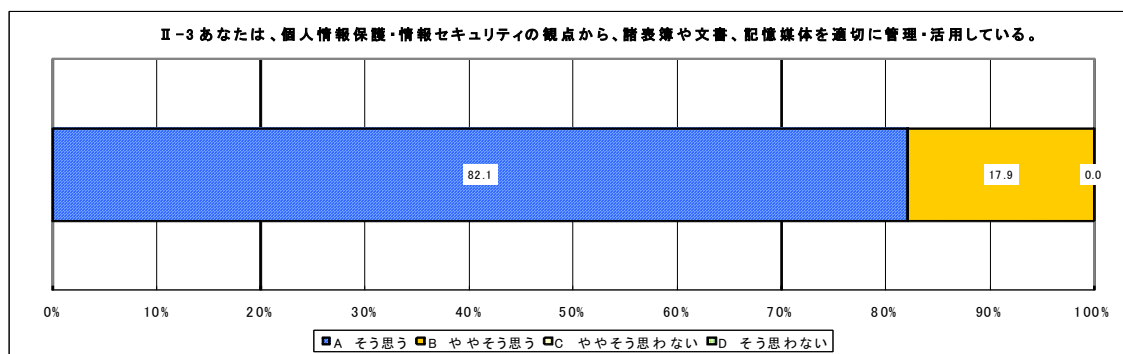
- ・ 確かな学力の定着については、個に応じた指導の充実、体験的な学習や問題解決的な学習の重視、指導と評価を常に一体的にとらえるよう工夫・改善を図る。
- ・ 豊かな心の育成については、児童理解に努め、道徳の時間の充実や体験活動（自主的、自発的な学級会や児童会活動、自然体験、読書活動等）の充実を図り、家庭や地域と協力し「声かけ」「あいさつ運動」に取り組む。

II 学校運営について

達成状況

- ・ 校舎内外の施設設備の管理、個人情報保護・セキュリティについての教職員の意識は高く、諸表簿や公文書、記憶媒体を適切に管理している。
- ・ 防犯、防災、事件、事故等に対する危機管理マニュアルの理解については、十分理解する機会と時間の確保ができなかった。
- ・ 教職員間の相互理解や信頼関係は良好で、協働して教育活動に当たろうという姿勢が見られる。本年度の学校経営の重点項目である「あいさつの声がひびきあう学校」への取り組みや異年齢集団によるファミリー活動の指導にその成果が見られる。
- ・ 校内研究（研修）への関わりについては、35.7%の職員が前向きに関わったと回答する一方で、60.7%の職員が「ややそう思う」と前年度と同様の結果であった。1学期は、研究テーマの設定、方向性、理論学習など基礎研究が中心であったことと、研究推進委員会が主体となる研究であったために、主体的に関わったという実感が得られなかったのかもしれない。





改善策

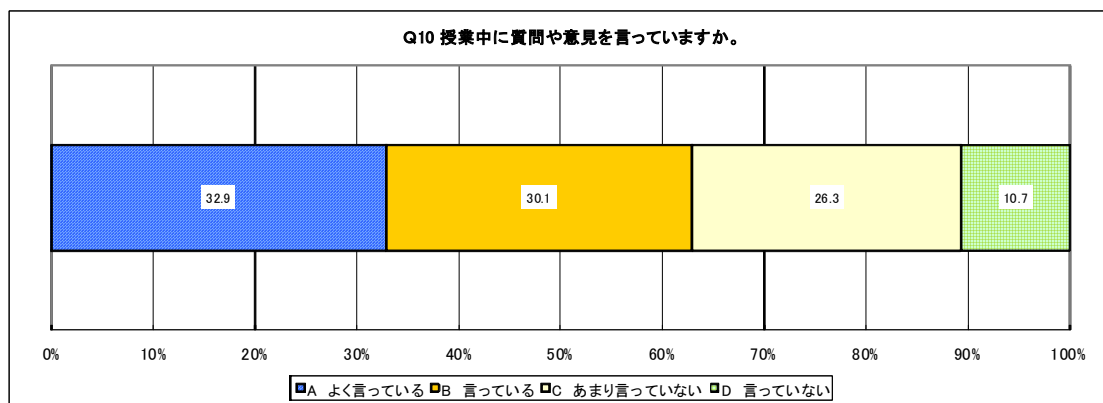
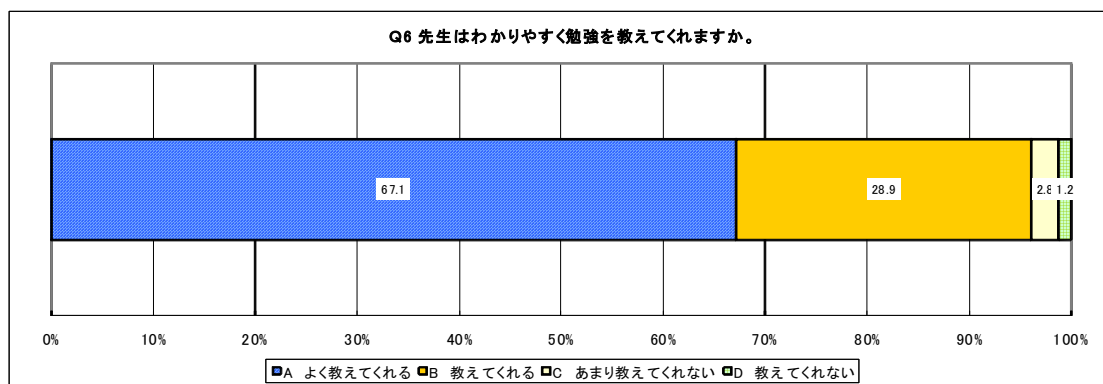
- ・ 防犯については、マニュアルの確認の機会を定期的を持つとともに、「声かけ事犯」「学校への不審者侵入」「通報訓練」等、想定を変えた防犯教室を関係機関（警察署）と連携する中で実施し、児童や職員の意識と技能の向上を図る。
- ・ 施設、設備の安全点検については、日常の観察と定期的な安全点検を徹底し、速やかに修繕と危険物の除去を行う。
- ・ 地震、火災等に対する防災については、定期的な避難訓練を臨場感あるものにするとともに、保護者と連携しての引き取り訓練を継続して実施する。
- ・ 個人情報の保護・セキュリティについては、これまで以上に自覚し、管理（文書管理マニュアルの徹底、パスワードの設定）に努める。

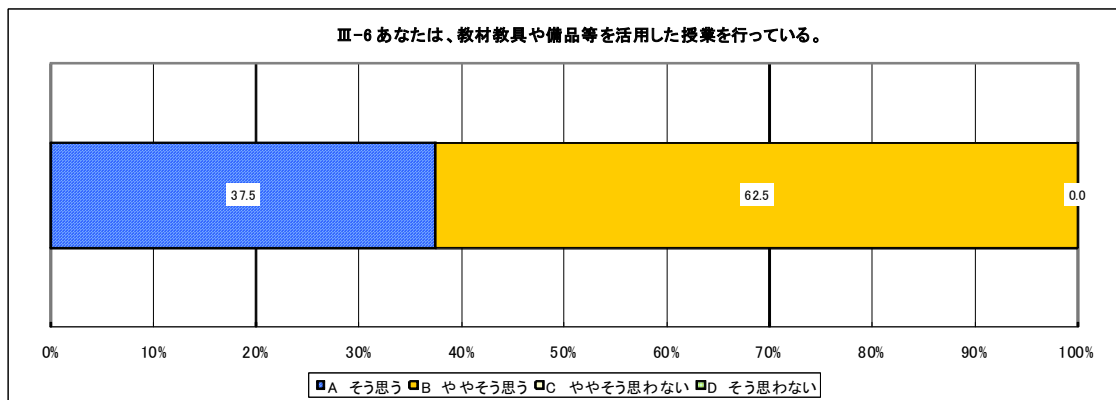
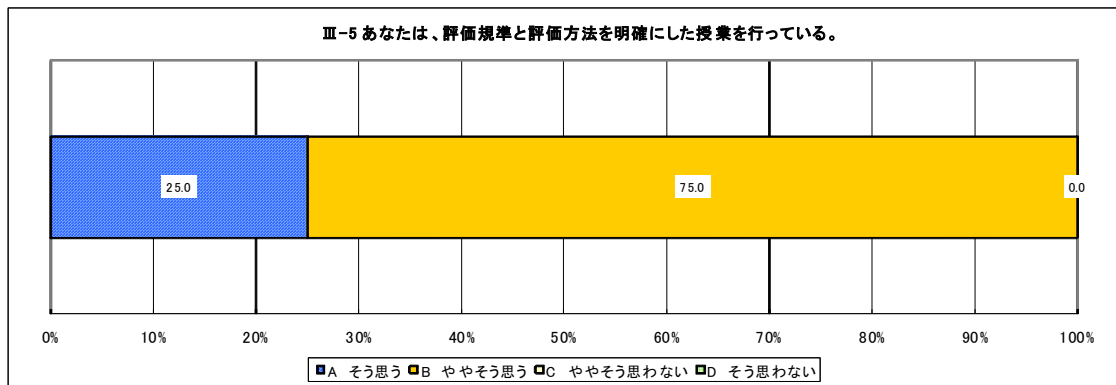
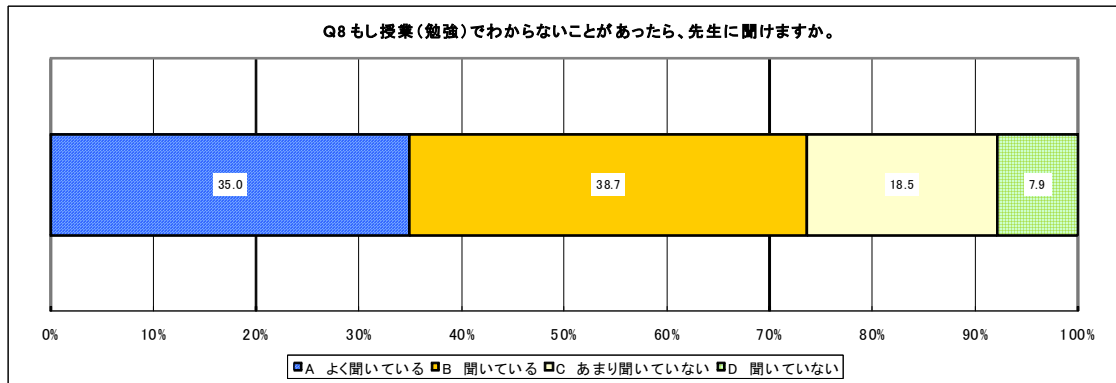
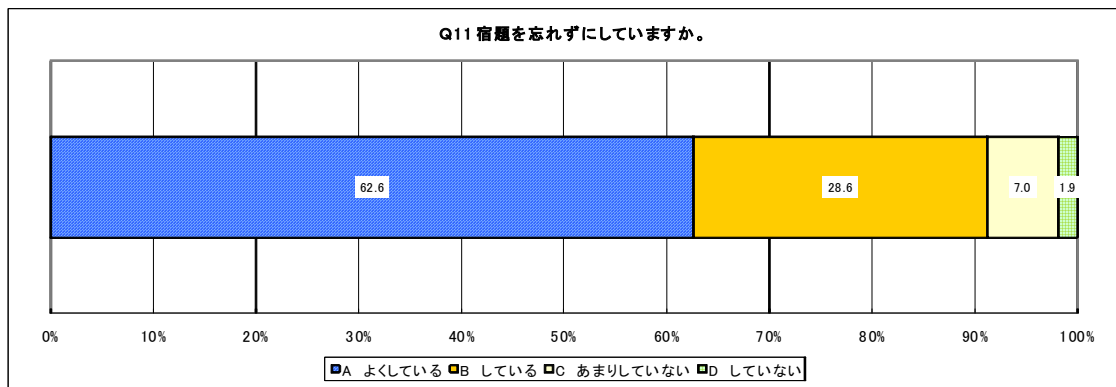
- ・校内研究については、今後、低・中・高学年のブロックごとに具体的な研究が始まることを受け、各自が職歴や年齢に合ったテーマを持ち、研究に取り組んでいくことで、意識の向上と資質・能力の向上を図っていきたい。

Ⅲ 学習指導について（児童生徒用アンケート等も含めて）

達成状況

- ・全校児童の84.5%が「授業がとても楽しい」「楽しい」、96.0%が先生はわかりやすく「よく教えてくれる」「教えてくれる」と回答している。基礎的・基本的な内容の確実な定着のために、個に応じた指導の充実に努めている結果だといえる。また、体験的な学習を多く取り入れ興味・関心を持たせたり、思考力をはぐくむための学習指導の工夫に努めているからではないかと思われる。
- ・家庭学習については、学習習慣や学習内容の定着といった意義を、お便りや学年懇談会などの機会を利用し説明している。宿題についても発達段階に応じた適切な学習量に配慮していることが、宿題を忘れずにやってくる結果となっていると考える。
- ・「授業中に質問や意見を言っていますか」に対し、37%の児童が「あまり言っていない」「言っていない」と回答し、「わからないことがあったら先生に聞けますか」という設問に対しては、26.4%の児童が「あまり聞いていない」「聞いていない」と回答した。高学年ほどこの傾向が強い。
- ・評価規準と評価方法を明確にした授業の実施、教材教具や備品等を活用した授業については、「そう思う」がそれぞれ、25%と37.5%とであった。指導と評価の一体化の観点から、評価方法について慎重に対応していること、教材教具や備品の使用については、まだ積極的に活用できる余地があると考えていることの表れではないかと考えられる。



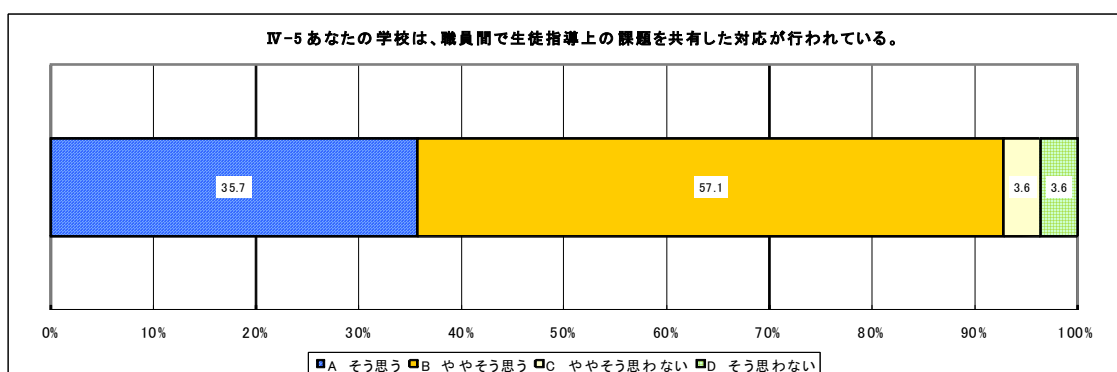
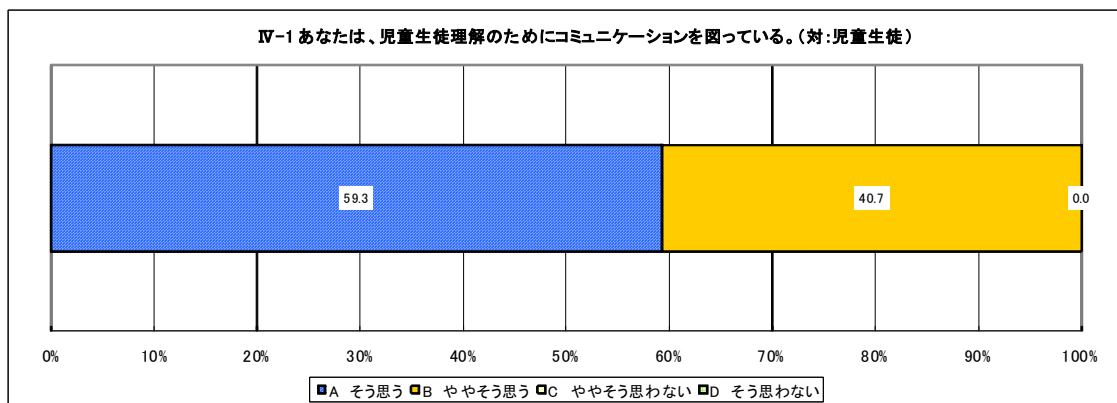


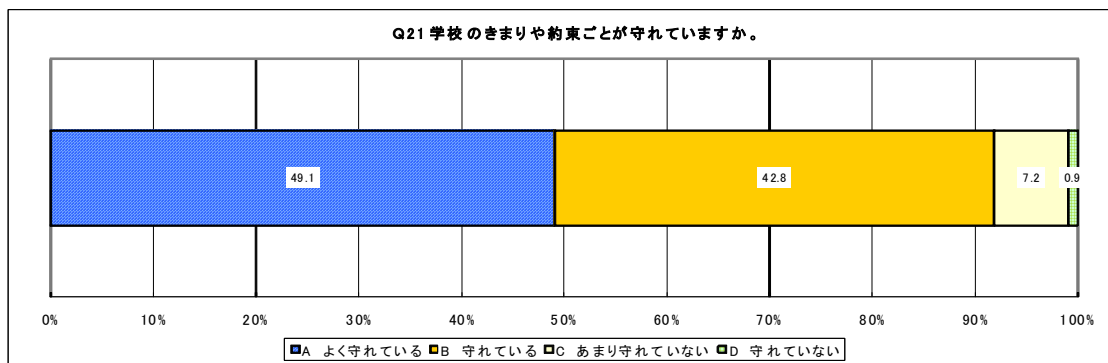
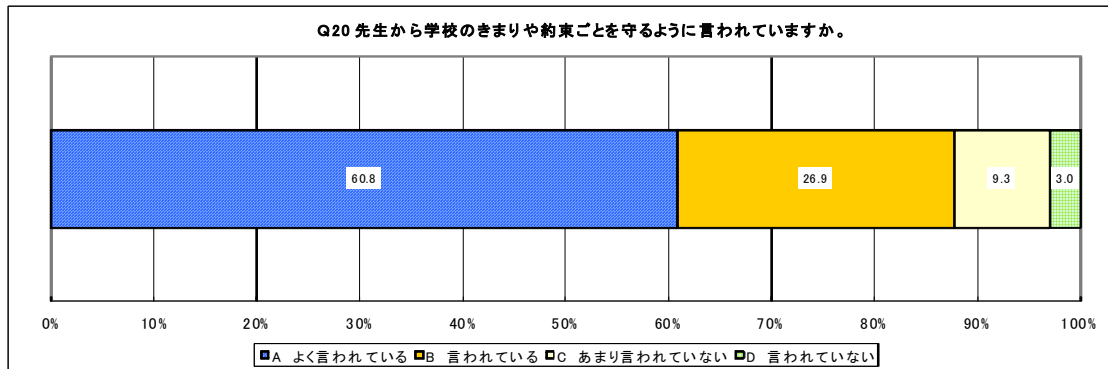
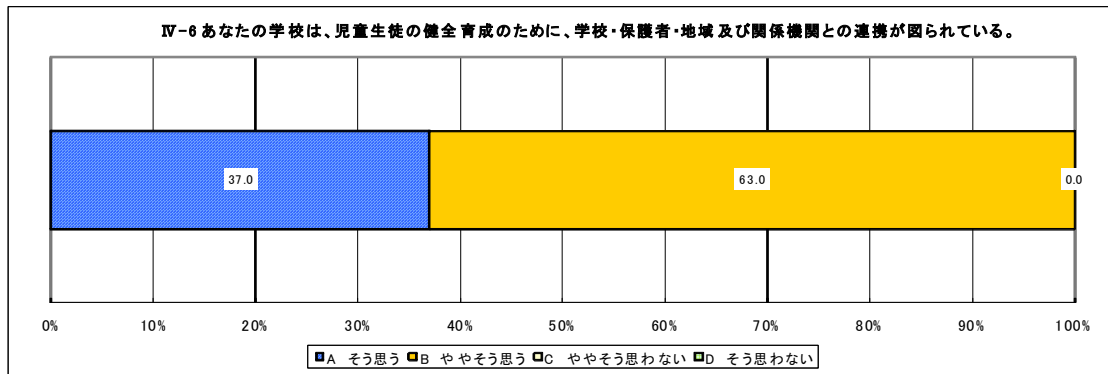
- ・ 楽しい授業、わかる授業を目指し、今後とも個に応じた指導（繰り返し指導、グループ別指導、補充的な学習等）や体験的な学習（作業、実習、創作、実験）の充実を図っていく。

- ・授業中の質問や意見などの発言については、学習内容や発達段階によるところが大きいと考えられるが、各教科等で言語活動（話す・聞く、読む、書く）を意図的に取り入れた学習過程や題材を工夫するなど、積極的に学習に取り組めるよう工夫する。
- ・教材教具や備品等を活用した授業、評価規準と評価方法を明確にした授業の実施については、職員同士で実践を紹介しあったり、その効果について研究する機会（校内研究）を設けたりする。

IV 生徒指導について（児童生徒用アンケート等も含めて）

- ・「児童理解のためのコミュニケーションを図っている」「規範指導に取り組む指導に取り組んでいる」とも、全職員が「そう思う・思う」と回答した。これは、学校経営方針の一つ「より深い児童理解に努め、指導方針や内容の共通理解を図る中で適切な生徒指導にあたる」をよく理解し、学級経営の充実や教師と児童、児童相互の人間関係づくりを重点に取り組んでいるからと考えられる。
- ・「問題行動の早期発見・早期対応ができています」「職員間での生徒指導上の課題を共有した対応が行われている」「健全育成のために学校・保護者・地域・関係機関との連携が図られている」等については、「そう思う」が、それぞれ37.0%、35.7%、37%といった回答であった。不登校やいじめといった問題行動にあたる姿勢としては、職員間の情報交換と共通理解がもう少し、必要なところである。ただ、児童の評価においては、「先生から学校のきまりごとや約束を守るように言われている」との設問に対し、87.7%の児童が「よく言われている」「言われている」と回答している。また、「学校のきまりや約束ごとが守られていますか」では、「よく守れている」「守れている」と91.9%が回答した。教職員の規範意識を育てようという姿勢がくみ取れる。





改善策

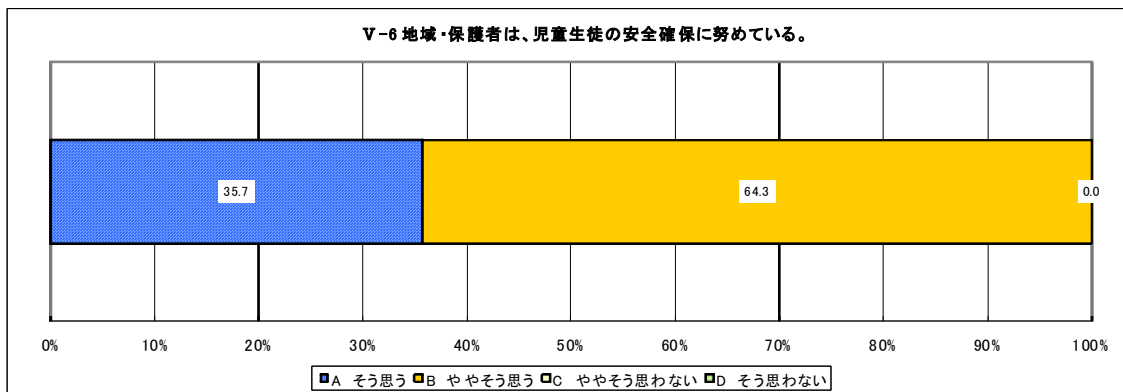
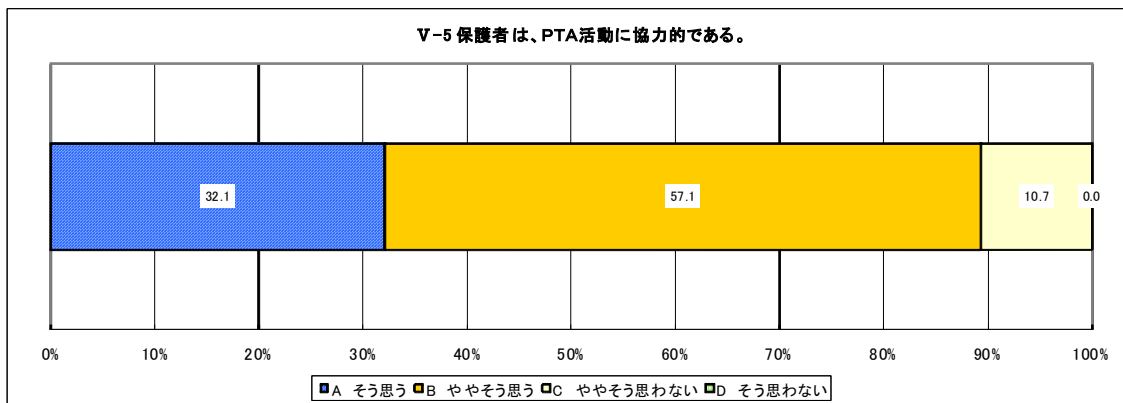
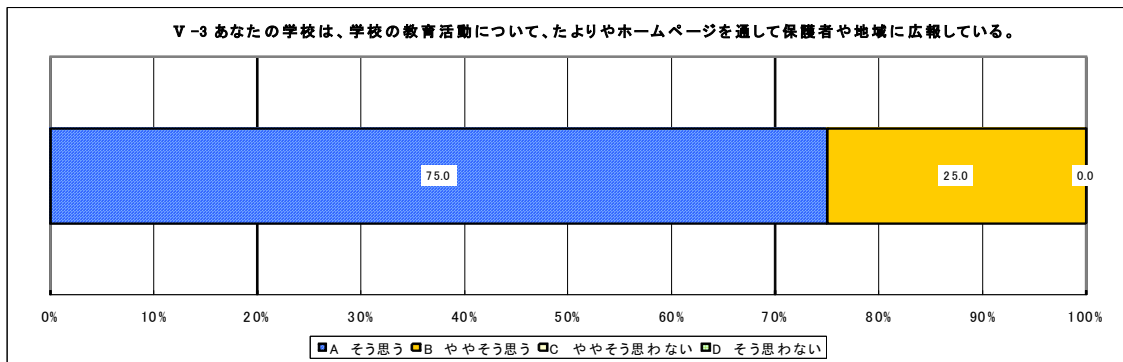
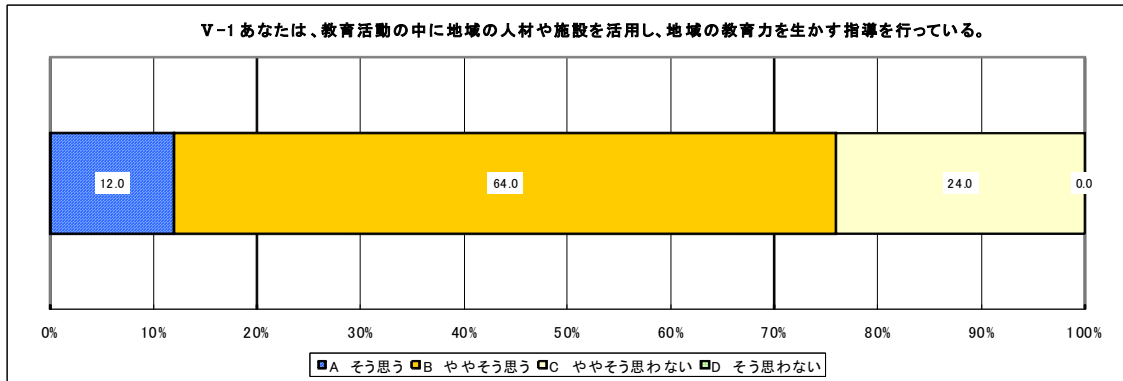
- ・児童一人一人についての理解と共感的理解（カウンセリングマインド）に努め、教師と児童、児童相互の好ましい人間関係を育てる。
- ・児童会活動や学級会活動において、話し合いや活動（係、当番、委員会等）の自主的、自発的な活動を促し、心の居場所となる学校づくりに努める。
- ・いじめについては、児童の日常の様子、他の児童や職員、保護者等からの情報をもとに早期発見に努める。そして、絶対に許さないという毅然とした態度で臨む。また、不登校への支援としては、SC と連携協力し、児童や保護者への相談体制の充実、学習支援を行う。

V 地域との連携について

- ・「地域の人材や施設の活用」については、「ややそう思わない」が24%であった。学習内容や学年によって人材活用に差がある結果となっている。
- ・ほとんどの教職員が、お便りやホームページ等を通して、教育活動や学校運営について地域や保護者に積極的に情報を発信している。
- ・職員は PTA 活動に主体的に参加している意識があり、保護者の PTA 活動に対し

でも、協力的であると感じている。

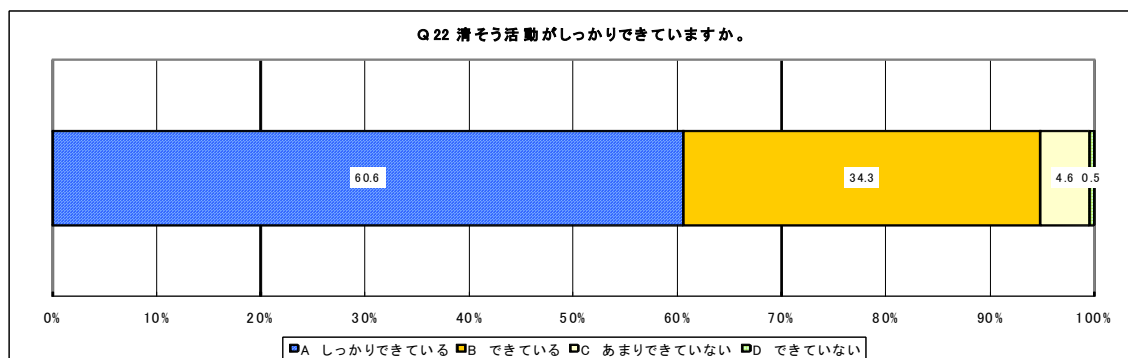
- ・「地域、保護者は、児童生徒の安全確保に努めている」については、ほぼ全員の職員が協力的だと感じている。保護者による「登校時の旗振り」、高齢者による「子どもの帰り道ふれあい事業」など、児童の安全確保に有効に機能していると考ええる。

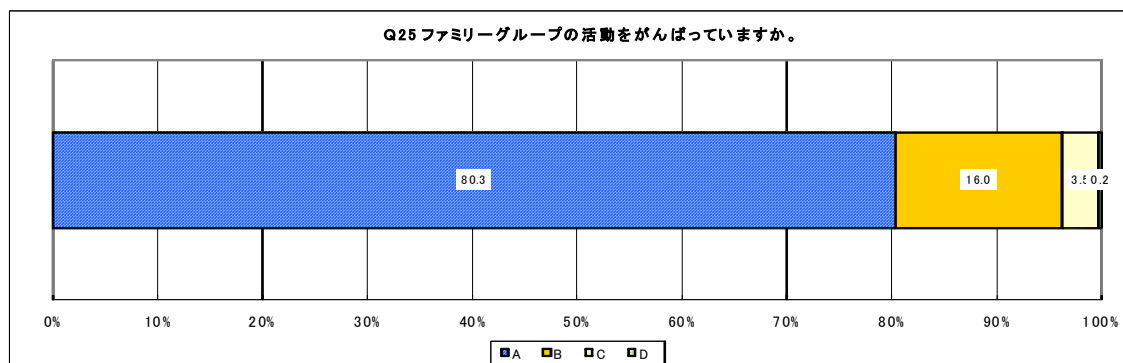
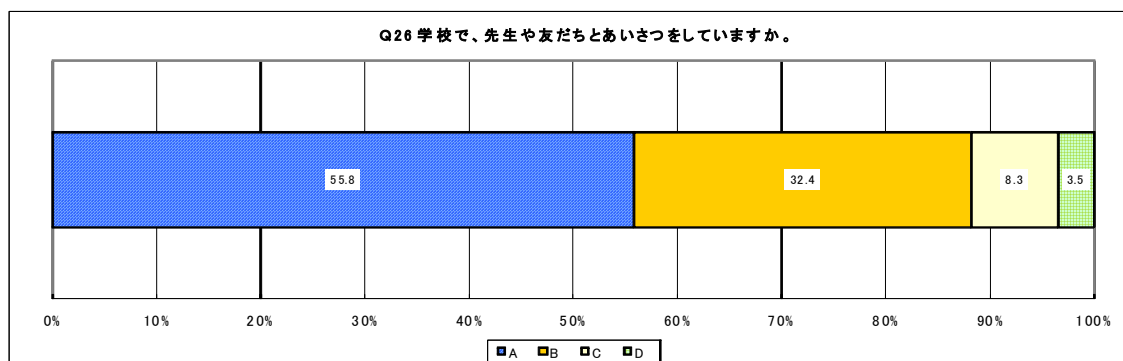


- ・家庭や地域への積極的な情報発信（学校・学年・学級便り、ホームページ等）、学校開放（授業参観、行事への参加、学習支援等）、学校評価結果の公表と教育活動の改善など、家庭や地域、関係機関等と一体となつての教育活動を展開する。
- ・保護者や地域に住む高齢者等の協力を得て行う授業の実施、地域素材の発掘と教材化など、地域の教育力を教育活動に反映させるよう努める。

VI 学校の特色に関して

- ・本年度学校経営の重点項目の一つとして、「あいさつの声がひびきあう学校」を取り上げ、児童会活動と一体となつて取り組んでいる。教職員が率先してあいさつをすること、児童会本部役員や学級役員が中心となつた「あいさつレンジャー」なるものを組織し、あいさつ運動を展開している。このことにより、「先生や友だちとあいさつしていますか」という設問に対し、88.2%の児童が「よくしている」「している」と評価している。若干だが昨年以上（昨年後期、86.1%）にあいさつの輪が広がっているといえる。また、二つ目の重点項目として「きれいな学校」に取り組んでいる。師弟同行による日常の清掃活動、児童会活動による「敷小キレイキレイ作戦」「校舎すみずみピカピカ作戦」では、草取り、石拾い、下駄箱、傘立てなど、具体的な活動や場所をきめて取り組んでいる。働くことの意味を理解したり、仲間づくりの機会となっていることはもちろん、キャリア教育推進の一助となっている。
- ・本校の特色ある教育活動の一つとして合唱活動に取り組んでいる。一学期には3回のドレミファ集会を実施し、音楽の学習や学年の合唱活動の成果を発表するよい機会となっている。
- ・「泉の時間」（始業前活動）を設定し、「よむよむタイム（活動）」「学習タイム（自主的な学習）」「ファミリータイム（縦割り班活動）」「スポーツタイム（体育活動）」などの活動を計画的に行い、児童も前向きに取り組んでいる。特に、ファミリーグループを活用しての「ちびっ子祭」「ファミリータイム（縦割り班活動）」は高学年児童のリーダーとしての資質の育成やリーダーに対する感謝の気持ちをはぐくむなど、心の教育にもつながっている。このことについて、6年生児童の「ファミリーグループの活動をがんばっていますか」では、96.3%が「よくがんばっている」「がんばっている」と回答している。





3 まとめ

<成 果>

- ・教職員が学校教育目標達成に向け、学校経営方針に基づいた教育活動を展開している。学習指導においては基礎・基本の定着、個に応じた指導を重点に確かな学力の定着に取り組んだ。このことは、児童の「授業が楽しい」「先生はわかりやすく勉強をおしえてくれる」といった評価結果にも現れ、児童の学習意欲を喚起する結果となっている。また、生徒指導においては、積極的なコミュニケーションによる児童理解ときめ細かな指導により、きまりや約束を守るといった規範意識が高まり、行動へとつながっている。
- ・本校の特色教育活動である「ファミリーグループによる活動（縦割り班活動）」の内容の工夫と計画的な取り組みは、全校集団づくりや学級集団づくりなど、教師と児童の信頼関係や児童相互の好ましい人間関係づくりといった面で大きな効果を発揮している。
- ・教職員一人一人が、常に研究と修養に努め、教育的愛情を持って、教育活動に取り組むことにより、学校教育目標である「知・徳・体の調和のとれた 人間性豊かな子どもの育成」を図りたい。

<課 題>

- ・教職員の自己評価と児童のアンケート結果から、教育活動に取り組む教職員の意識と児童の学校生活における感じ方にほとんど差がないことがわかった。今後はこの結果を教育活動のさらなる充実につなげていくために、常に実践を振り返り工夫していきたい。特に、PDCAの学校評価システムによる評価、改善を繰り返すことにより、高次の教育を追求していきたい。
- ・児童や学校が抱える諸課題の解決に向け、今後も家庭や地域の人々との情報共有や教育活動への参画を求めていく必要がある。